



えのきだクリニックからのお便り vol.3 (2023/9)

こんにちは。えのきだクリニック院長の榎田です。皆様に役立つ情報をお伝え出来ればと思い、クリニックからのお便りを始めました。今回のテーマは・・・

「胃がんとピロリ菌」です。

ピロリ菌の正式名称は、ヘリコバクターピロリ菌と言います。

特徴としては、井戸水や家族からの感染により胃内に住み着き、長い時間をかけて慢性胃炎・萎縮性胃炎を引き起こします。この状態が長く続くと徐々に胃の粘膜が障害されて、胃十二指腸潰瘍や胃がんを生じさせてしまう可能性があります。胃がんの原因として塩分摂取などが

言われていますが科学的な証明はされておらず、唯一関連が証明された原因がピロリ菌です。日本の上村先生が1526人の日本人を7.8年間追跡調査したところ、ピロリ感染者での2.9%で胃がんが発生したことに対してピロリ非感染者からは1例の胃がんが発生しませんでした。そのため**胃がんの99%がピロリ菌感染**とされています。(注：最近ピロリ非感染の胃がんも注目されており、ピロリがいなければ胃がんが生じないわけではありません。)

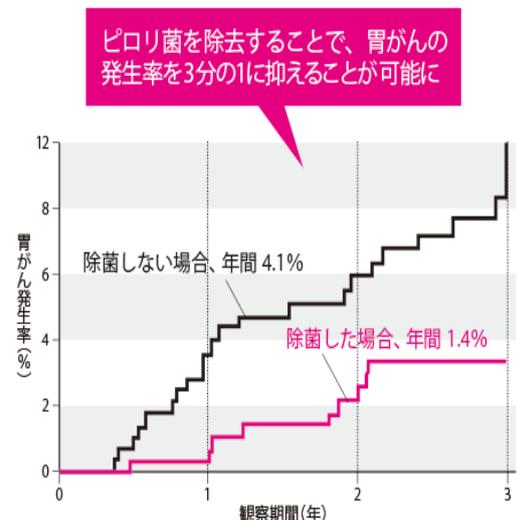
以上より、ピロリ感染がある場合は注意が必要です。もしピロリ感染があった場合はピロリ菌の治療を推奨します。ピロリ除菌により胃がんのリスクを十分減らすことができます。ただし除菌後も胃がんリスクは残るため1年ごとの内視鏡検査が推奨されます。

ピロリ菌が心配な方、家族がピロリ菌や胃癌を指摘された方、
ピロリ除菌後の定期検査を受けていない方はご相談ください。



ピロリ菌除菌後の胃がん発生率

出典：日本ヘリコバクター学会「市民の方のためのピロリ菌解説」



Fukase K, et al : Lancet 2008